

令和2年度 実施事業の概要

施設名: 国立妙高青少年自然の家			
教育事業名: 「MYOKO ボランティアキャンプ」			
期間: 令和2年9月5日(土)～9月6日(日) (1泊2日)			
対象及び参加人数: 自然体験活動や青少年教育に興味関心のある者 34名(大学生・高校生)			
目的: 講義や演習、野外体験活動等の研修をとおして、青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的な知識・技術について学ぶ機会とする。			
事業概要: 「MYOKOボランティアモデル」を基に、ボランティア養成事業として実施した。上越教育大学、新潟青陵大学等から34名が参加した。 ボランティア活動の技術では、課題解決型野外炊事(びっくり野外炊事!)を実施し、かかわり合いながら通常の野外炊事では学ぶことのできない視点を持ち、活動することができた。また、7名の先輩ボランティアが支援し、触れ合うことで、参加者にボランティアの魅力をもっと伝えることができた。			
成果: 新型コロナウイルス感染拡大予防に留意したプログラムや環境整備に努め、実施した。 機構の共通カリキュラムをもとに事業を実施した。今年度も、上越教育大学、新潟青陵大学に加え、高等学校の学生の参加もあり、多様性のある効果的なグループワークを展開できた。 アイスブレイクを各プログラム前に行い、参加者同士がコミュニケーションを十分にとり、リラックスして活動できるよう配慮して進めた。平成28年から実施している「MYOKO ボランティアモデル」に基づき、先輩ボランティアがロールモデルとして活動する姿を見せることで、ボランティアの魅力をもっと伝えることができた。 ボランティア活動の技術においては、びっくり野外炊事を実施し、通常の野外炊事では学ぶことのできない体験を提供することができた。プログラムのもつ教育効果が活き、かかわり合いながら実施する姿が多く見られた。また、先輩ボランティアからの講義では、発表者が自身の体験を振り返って話したことにより参加者がボランティア活動に対する意欲を高めていた。新潟青陵大学・中野講師の講義では、ボランティアの意義について、グループワークを通して学んだ。 体験と振り返りを繰り返すことで、充実した2日間のプログラムが展開でき、参加者全員が法人ボランティアとして活動したいという意欲を高めていた。			
 「どの食材にしようかな。」	 薪の割り方を学ぶ	 中野講師の講義の一コマ	 先輩ボランティアの発表
課題: 今年度も一定の新規ボランティアの確保ができた。今後も引き続き「MYOKO ボランティアモデル」に基づいた取組を実践していきたい。参加する学生の大学が固定傾向にある。今後、幅広い大学から参加者を募っていく。加えて、昨年度から受入を開始した高校生のボランティアの確保についても、近隣の高等学校等と連携していきたい。			